

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : マウントアリソン大学

留学期間 : 平成 26 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 12 月 17 日

1 年生が終わり、4 ヶ月もの夏休みを経て、私は再びカナダに旅立ちました。この後、3 年目、4 年目と続くわけですが、やはり上の学年になればなるほど飛行機に乗るのも、長時間のフライトも、慣れていきました。

2 年生は、私にとって、一年生とはまた違う挑戦をした年でした。特に後半の冬学期は、3 年生の授業を 5 科目中 2 科目履修するなど、自分にできるか少し不安ではありましたが、結果的には、納得のいく成績もとることができ、早めにとったおかげで後々余裕ができたので、あの時取っていてよかったと思います。また、2 年目ともなると、ようやくカナダの生活にも、大学の授業にも、そして勉強の仕方にも慣れてくる時期であり、少し気持ちにも余裕が出てきた頃でもあったということもありました。そこで、勉強以外の何か新しいことにチャレンジしたいと思い、今までより頻繁にジムに通うようになったり、ソフトボールチームに入ったり、大学の空手クラブに入ったりと様々なことに挑戦しました。ソフトボールや空手を通じて新しい友達もできましたし、勉強漬けの生活から少し息抜きができたので、何事も試してみるものだなと思いました。また、リベラルアーツ制度を導入している私の大学では、2 年生の終わりに(メジャー)専攻と副専攻(マイナー)を決めます(人によってはダブルメジャー、ダブルマイナー、オナーなどもあります)。私も、メジャーを社会学、そして、女性ジェンダー学と人類学をダブルマイナーで登録をし、2 年生を終えました。

そして 2 度目の夏休みも終わり、3 年生が始まりました。2013 年 9 月に入学したことがほんの数ヶ月前に思えるほど、もうすでにカナダの大学生活の半分を終えてしまったんだと、少し嬉しくも、寂しくもあるなんともいえない気持ちだったことを覚えています。しかしそれもほんのつかの間で、3 年生からは授業の規模も全体的に小さくなり、これまでより更にディスカッションも増え、リーディングや課題の量もドンと増え、今まで以上に勉強することが求められるようになりました。この時改めて、カナダやアメリカの大学は卒業するのが難しいと言われている意味を身をもって実感したように思います。上の学年になればなるほど一緒に入った友達や入った頃にいた友達(特に留学生)が減っていったのも事実であり、甘い世界ではないということも改めて感じました。しかし私は、だからこそ、目標を高く持ってその目標に向かって頑張りたい、ここまで来たんだから絶対大丈夫という気持ちがありました。授業は確かに厳しくなったし、課題の量も格段に増えたけれど、上の学年になればなるほど 1 つのトピックをより深く追求していくので 1 年生や 2 年生の授業とは違った意味で面白いなと思いましたし、知らなかったことを学び、どんどん知識や教養をつけていくのが自分でもわかったので、勉強するのが楽しかったです。とくに主に 4 年生の授業であるセミナーの授業では、教授はあまり授業をせず、ディスカッションメインだったり、個人の研究テーマを決め、それを個々でプレゼンしたりと、生徒中心で授業が進んでいきます。

正規留学は短期留学とは大きな差があり、周りのネイティブのように卒業するのを目的としています。個

人差はあるかと思いますが、私が思うカナダの大学生活をこれまでやってこられた一番の理由は、「自分の意志や留学の軸をしっかり持っていた」ということだと思います。周りを見ても、自分の意志を強く持ち、自分なりの目標を設定し、それに向かって頑張ることができる人は成功している人が多いです。また、自分の専攻の学問にどのぐらい興味があるかも大事だと思います。やはり興味のある学問だと知りたいと思えずし、エッセイやテスト勉強もそれほど苦にはならないと思います。正規留学は本当に大変ですが、だからこそ、言語力以外でもたくさん自分を成長させることができます。それが何かは人によって違うとは思いますが、私の場合、壁にぶつかったときでもへこたれない強いメンタルや、自分のベストを尽くす力を培うことができました。また、それ以外にも、自分の意見を自信をもっていうことができる力、母国語以外でのコミュニケーション能力など、留学するまでの自分と今の自分を比べた時、本当にたくさんの意味で自分自身を成長させてくれたんだなと思いました。しんどい分、頑張ったら必ず何か成長する部分や学ぶ部分があるということを知り、終えた3年生、そして4年生の前半でした。残りはいよいよ一学期のみになりましたが、今しかできないことを精一杯やりたいと思っています。